

エル・ネット「オープンカレッジ」News

Vol.28

2007年10月5日発行 発行:(財)日本視聴覚教育協会 東京都港区虎ノ門1-19-5虎ノ門1丁目森ビル内 <http://www.opencol.gr.jp/>

平成19年度 エル・ネット オープンカレッジ「地域からの発信」

平成19年度の新規コンテンツの放送が10月より始まります。今回は、各コンソーシアムより、各コンテンツ内容について、活用事例を含めた詳しい紹介文をお伝えします。今回と次号のNewsで紹介していきます。各受信施設で、コンテンツを活用した講座などを開講する際の参考にしてください。放送時間は初回放送、再放送ともに10時からになります。詳しくは、ホームページでご確認ください。

なお、中越エコ・セーフティ学習協議会制作のコンテンツは、本年7月に発生しました新潟県中越沖地震の影響を受けて制作が遅れていることから、11月の放送開始を予定しております。まさに災害対策・対応を実践中の地域からの発信コンテンツに、どうぞご期待ください。

●eラーニングを活用した佐賀生涯学習推進委員会

◎コンテンツ名：地域の環境―森・川・海を繋ぐ環境と暮らし―その保全・再生を目指して 「清掃工場とリサイクル」

講師：田中 稔（佐賀市環境下水道部環境課課長）

放送日：10月11日（木）10:00～10:38（再放送10月15日（月）10:00～10:38）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

佐賀市清掃工場の1日に注目し、私たちが捨てたごみの行き先を確認する。廃棄物は、3R（Reduce, Reuse, Recycle）が基本となる。中でもReduceは重要で、ごみを抑制し、ごみゼロ社会を目指す。清掃工場の焼却炉の温度は850度以上で、ダイオキシンをださない。灰さえ、建築用材やレンガ等に利用する。本コンテンツは、誰にでも親しみやすい構成で、専門的内容も学びやすくしている。ごみの減量・資源の有効利用に関する情報発信を行うエコプラザ活動を見て、ゴミを減らすための工夫などについて学習する。

◆コンテンツの活用例：

エコプラザの活動を市民の環境教育の拠点にして、ごみを減らす知識とスキルを身に付けさせる際に、モデルとなる活動事例として視聴する。

清掃工場にきた人やエコプラザの入場者に見せて、「ごみの3R」の理解を深める。

環境系のコーディネーターやインストラクター等を目指す方の基礎教材として活用する。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

各地のエコプラザと連携して講演会を開催し、清掃工場の実情に触れながら「ごみの3R」の理解を深める機会をつくる。

教材を視聴した後、確認テストの時間を設け、理解の深化を助ける（講演会ではテキスト、確認テストを配布）



◆本番組の講座は、各コンソーシアムからインターネットでも配信されます。配信アドレスについては、メールマガジンやスケジュール表でお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

◆メールマガジンを毎週水曜日に配信しています。講師・講義内容・スケジュールや最新情報をお届けします。配信を希望される方は [www.opencol.gr.jp] からご登録ください。

◆放送日及び講座内容は変更されることがあります。ご了承ください。また、天候により番組を見ることができない場合があります。

◆講座内容、テキスト等詳細については、 [www.opencol.gr.jp] でご確認ください。

◆エル・ネットは、平成20年4月以降、インターネットへ移行します。これまで以上に学習への活用がしやすくなりますので、どうぞご期待下さい。

◆問い合わせ 文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）付
電話：03-5253-4111（内線3263・2941）

◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して
「ごみを宝に！ =大学と地域が進める食資源循環=」

講師：染谷 孝(佐賀大学農学部准教授)、福田 俊明(NPO法人伊万里はちがめプラン理事長)

放送日：10月18日(木) 10:00~10:45(再放送10月22日(月) 10:00~10:45)

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人~高齢者

◆コンテンツのねらい：

NPO「伊万里はちがめプラン」と佐賀大学「エココミネット(食資源循環支援活動)」の活動やその成果を紹介する。家庭から回収された生ごみは100日かけて堆肥に変わる。大学では技術研究やエコビジネスのマネジメント研究の知見から活動をサポートしている。生ごみを有機堆肥に変えて畑や田んぼに戻すことで食物連鎖を促し、次の生命体のエネルギー源として役立ち、土に活力を与える。本教材は専門的な内容であるが、食物連鎖について、誰にでも興味を持てるように説明している。リサイクルの究極、ごみを宝物に変える取り組みを学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

他地域でも同じようにごみを堆肥にする知識やスキルを学ぶことができる。

サテライトに来る見学者に対し、生ごみを有機堆肥に変えるノウハウを説明する。

大学が学術的知見を生かして地域に根づいた活動事業を行う事例として、大学内での視聴に供する。

地域活動におけるネットワーク作りに携わる、NPO、行政機関、教育機関等の関係者の研修機会に活用する。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

全国に広がる資源循環サイクルづくりプロジェクトである「菜の花プロジェクト」と協力して講演会を開催し、食物連鎖への認識を深める機会を設ける。

教材を視聴した後、確認テストの時間を設け、理解の深化を助ける(講演会ではテキスト、確認テストを配布)。



◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して
「環境とアレルギーの関係」

講師：市丸 智浩(佐賀県立病院好生館小児科部長)

放送日：10月25日(木) 10:00~10:30(再放送10月29日(月) 10:00~10:30)

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人~高齢者

◆コンテンツのねらい：

アトピー性皮膚炎、花粉症、科学物質アレルギーなどの「アレルギー性疾患」は現代病とされている。アレルギーが起こる原因を知り、アレルギーに関する正しい知識を学ぶ。対話型のコンテンツにし、専門的内容を子供から老人まで学習できるように工夫している。環境とアレルギーとの関係について正しく考えることにより、患者が自ら対策できるように導く。

◆コンテンツの活用例：

患者の自助グループや患者を抱える家族の集まりでの視聴に供し、当事者の理解を助けるために活用する。一般的な生活環境の中に存在するアレルギー因子を知ることで、どのように環境と付き合っていくかを学ぶ。また、現在アレルギー症状がある人だけでなく、誰もが健康に過ごせる、暮らしやすい環境作りを考えるために役立てる。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

実際にアレルギーで困られた方に講話をしてもらい、環境が関与する身体被害の実態に触れる機会を設ける。

受講者の身近な環境をも振り返りつつ、アレルギーを引き起こしやすい環境の改善について、社会的に取り組みされている活動や事業があるかどうかについて、調べ学習の機会を設ける。

教材を視聴した後、確認テストの時間を設け、理解の深化を助ける(講演会ではテキスト、確認テストを配布)。



◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して
「職場の環境と健康」

講師：市場 正良（佐賀大学医学部社会医学講座准教授）

放送日：11月8日（木）10：00～10：32（再放送11月12日（月）10：00～10：32）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

産業医学の歴史、職場の有害因子、予防対策の基本を学ぶ。職場の環境が労働者の身体に与える影響について産業医学の観点からわかりやすく解説する。研究者や専門家が持っている情報を講義を通して、一般市民の方々に広く知ってもらおう。中でも粉じん・有機溶剤・騒音などの有害因子による影響や予防対策の基本について学ぶ。本コンテンツは、働く人であれば誰にとっても身近な問題であるテーマについて、専門的な知識を深めてもらえるようにしている。

◆コンテンツの活用例：

いろいろな環境の職場の人に見てもらい、環境労働を考えるのに役立つ（労働環境の改善）。組織の人事・環境部門や、人材派遣業に携わる人などに、管理者研修用の資料として視聴してもらう。正しい知識を身につけ、働く人々の病気を予防する適切な方法を見出すことの重要性を学ぶ。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

講演会では、コンテンツ映像を見ながら解説をしてもらい、専門的内容を深めてもらう。

職場での環境被害について、相談できる窓口は必要だろうか。どこにそれは置かれるのが望ましいか。現在の環境にはそれがあるか。受講者各人が自分の職場を振り返って、意見交換やディスカッションをする時間を設ける。

職場における環境被害については、労働者はどのような法的保護を受けているのか。労働者の権利や雇用の義務について、どのような基準が整備されているのか等を調べる機会をつくる。

教材を視聴した後、確認テストの時間を設け、理解の深化を助ける（講演会ではテキスト、確認テストを配布）。



◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して
「森の環境」

講師：五十嵐 勉（佐賀大学農学部准教授）、吉村 剛（森林インストラクター）

放送日：11月15日（木）10：00～10：45（再放送11月19日（月）10：00～10：45）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

地球温暖化問題の対策の一つとして、森林による二酸化炭素の吸収作用に大きな期待が寄せられている。しかしながら、身近な森の環境は遠くから眺めていては見えない。人が遠ざかった里山の森は竹林の拡大によって荒廃し、木材価格の低迷や過疎化・高齢化によって手入れの行き届かない人工林が増大し、森林の多面的な機能の維持が難しくなっている。このような森の現状を理解するために、森林ボランティアや森のエコツアーなどの体験を通じて、学習することが必要である。森づくりを担う仕事に現場で携わろうとする人にとっての最適なガイド、活動事例となるコンテンツである。

◆コンテンツの活用例：

森林ボランティア体験講座・森林インストラクター養成講座などの学習機会を通じて、実際に体験を通じた活動に発展させる際の入門参考教材として活用する。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

森林インストラクター、プロジェクトワイルド・ファシリテーター等の資格を有する森の案内人・森林ボランティアのコーディネーターが実践している環境学習の指導者を目指すための発展的な学習機会を設ける。インターネット等で得られる関連の養成講座の情報を紹介、あるいは調べ方を紹介し、視聴によって高まった学習意欲の活かし方を案内する。教材を視聴した後、確認テストの時間を設け、理解の深化を助ける（講演会ではテキスト、確認テストを配布）。



◎コンテンツ名：防災と自然—安全と環境を守るための知恵と技—「中越の自然災害」

講師：上村 靖司（長岡技術科学大学）

放送日：11月7日（水）10:00～10:50（再放送11月16日（金）10:00～10:50）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

自然災害大国と言われる我が国であるが、中越地域では最近数年間の間に水害・震災・豪雪と、度重なる多様な災害に見舞われた。これらの災害の概要を紹介しながら、なぜこの地域でこのような災害が起きたのか、災害に直面して住民や行政がどのように対応したのか、そして今後に残された防災の課題は何かについて、これらの経験を通じて学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等では、災害を引き起こした地域の気候や地形などの理解を深めるために活用する。

自治会や町内会単位では、自主防災組織作り等の場面での学習資料として活用してもらう。

行政組織に対しては地域防災計画の基礎資料として活用してもらう。

学校等において、災害と防災の学習のための教材として活用してもらう。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

地域のNPO等が主催する視察会への参加を呼びかける。

災害の様子を示すパネルや参考資料・文献等の閲覧ができるようにする。行政組織等が発行するパンフレット等も必要に応じて配布する。



◎コンテンツ名：防災と自然—安全と環境を守るための知恵と技—「市民防災におけるコミュニティの役割」

講師：伊吹 勇亮（長岡大学）、澤田雅浩（長岡造形大学）

放送日：11月21日（水）10:00～10:50（再放送11月30日（金）10:00～10:50）

講義レベル：初級：入門 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

地域住民の協働による防災活動の促進のため、自主防災組織の必要性・重要性並びに役割を理解する。また、行政の支援による組織づくりにとどまらず、地域の実情に応じた対策の展開など主体的な活動が災害時に効果を示すことを、事例を踏まえて学習する。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等では、災害時の自主防災組織の役割についての理解を深めるために活用する。

自治会や町内会単位では、具体的な組織作りや活動方針を検討する際のきっかけとして活用する。

行政組織による住民への説明に際して、自助・共助・公助の相互補完性の解説資料として活用する。

コンテンツの学習時には、地域の課題や特徴を検討するきっかけを与える。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

消防署による救急救命講習の実施や、防災士による活動内容の紹介を行う。

地域コミュニティの現状の課題を検討し、自然災害時の被害の状況を想定するとともに、その対応策を具体的に検討していただく。

